

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 大崎市立古川北中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒989-6252
宮城県大崎市古川荒谷字権現山5

E-mail osaki_fk-jh@educ.osaki.miyagi.jp

Website _____

児童生徒数 男子 124名 女子 134名 合計 258名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

◆活動1 第2学年：化女沼周辺の環境学習（2016年4月20日～5月25日）

1 目的

- ① 普段何気なく見過ごしている故郷の豊かな自然環境に関心をもたせ、環境学習を通してその素晴らしさを再認識させる。
- ② 化女沼周辺の自然環境の実態を知ることにより、自然や故郷を大切にする心や環境を保護しようとする態度を育てる。

2 実践活動

① 化女沼の環境保護に関する講演会（2016年4月20日）

NPO法人「エコパル化女沼」副理事長であり、宮城誠真短期大学生物学講師である高橋和吉氏を講師に迎え、化女沼に生息する植物や生物の実態及び化女沼の抱える課題や保護の実情についての講演を聞いた。1年生の時に学習したことを思い出し、5月に行う実地調査の事前指導として行われた。生徒は、とても関心をもって講話を聞くことができた。



② 化女沼に関する調べ学習（2016年4月22日～5月10日）

講話を聞いて興味・関心が深まった事について、各個人でテーマを決めインターネットを利用した調べ学習を行った。特に、大崎市の鳥でもある「マガン」を始めとする渡り鳥や、化女沼に生息する外来魚の「ブルーギル」、「オオクチバス」などについて調べた生徒が多かった。今回の調べ学習によって、次の現地調査に向けて、生徒のモチベーションが高まった。

③ 化女沼の現地調査（2016年5月13日）

化女沼の現地調査は、「化女沼観光資料館の訪問」、「外来魚駆除の定置網の引き上げ」、「化女沼に生息する生物の観察」の3つの活動を行った。

○化女沼観光資料館の訪問

化女沼観光資料館は、講演会で講師を依頼した高橋氏が事務局長を務めており、今回も説明役を依頼した。資料館の1階は、化女沼に生息する魚類や植物、2階は化女沼に渡ってくる渡り鳥を中心とした野鳥のコーナーになっており、化女沼に生息する生物の実物、標本、剥製、写真資料などが展示されている。



○外来魚駆除の定置網

化女沼のほとりには、外来魚を駆除するための定置網が設置してある。今回は、この定置網を引き上げる様子を、説明を聞きながら見学した。定置網を引き上げたところ、生まれて2年目のブルーギルや1年目のオオクチバスと、今年生まれたオオクチバス等の稚魚が3000匹ほどかかっていた。生徒は、稚魚の多さに驚いていたが、最も驚いたことは、本来化女沼に生息しているはずの在来魚が、1匹もかかっていたことである。生徒は、もし駆除の活動をしなければ、化女沼の在来魚が姿を消し、大変な数の外来魚が育っ



てしまうことを実感したようだ。保護活動により、環境が徐々に改善してきていることは説明を受けたが、実際はまだゴールが遠いという印象を受けた。生徒も、化女沼が抱える課題に気付くことができた。

○化女沼に生息する生物の観察

化女沼周辺に生息する生物の実態について、実物を見ながら説明を受けた。マガンやヒシクイ、シジューカラガンなどの渡り鳥にはまだ早い時期であったため、スコープを使って水上の生物や植物を観察した。実際には、1年中生息するカルガモやセグロセキレイなどの野鳥が観察できた。生徒が最も興味を示したのは、水中の生物であった。普段は見るできないヒシを、沼から抜いて見せてもらった。さらに、水中生物を保護するためには、水中の水草にも日光を当てる必要があり、そのためにハスが枯れると刈っているという現状なども説明を受けた。生徒は、自分たちの知らないところでそのような努力が行われていることに驚いたようであった。また、網ですくただけでブルーギルやオオクチバスの稚魚が簡単に採れた。先ほどの定置網と同様、その生息数の多さに改めて驚いていた。



④ まとめ活動（2016年5月13日）

この学習で学んだ内容を、各自作文にまとめた。

《 生徒の作文 》

今日は、先日続き2回目の環境学習が予定されていたので、とても楽しみにしていました。私は小学生の時に、一度この観光資料館に来たことがあります。その時よりも化女沼のことを詳しく知ることができました。特に、展示室に置いてあった雁の名前のコーナーでは、雁の名前を漢字で表していました。読めたものもありましたが、読めないものもあり、少し残念でした。私が驚いたのは、シジューカラガンについてです。絶滅の危機にあった鳥が、保護活動のおかげで今はたくさんいるということです。講話の中で、昔、ロシアでキツネ等によって鳥が絶滅しかけたというお話も印象に残っています。

私は、近くに住んでいながら化女沼のことをあまり知りませんでした。しかし、今日の校外学習や今までの環境学習を通して、化女沼の自然の素晴らしさや大切さが少しずつ分かってきました。私は、自分が住んでいるこの地域に化女沼があるということを「誇り」に思い、これから生活していきたいと思います。

◆活動2 第1学年：化女沼環境学習（2016年10月26日～11月30日）

1 目的

- ① 普段何気なく見過ごしている故郷の豊かな自然環境に関心をもたせ、環境学習を通してその素晴らしさを再認識させる。
- ② 化女沼周辺の自然環境の実態を知ることにより、自然や故郷を大切にすることや環境を保護しようとする態度を育てる。

2 実践活動

① 化女沼の自然に関する講演会（2016年10月26日）

2学年と同様、高橋和吉氏を講師に迎え、化女沼に生息する動植物の実態

などについての講演を聞いた。化女沼の抱える課題や化女沼の保護の実情にも触れ、故郷の自然を守る必要性を認識した生徒が多かった。

② まとめの活動（2016年11月22日～11月30日）

この学習で学んだことを壁新聞にまとめ、掲示して発表した。

《 生徒の感想 》

今から300年前にできた化女沼。それから今までさまざまな変化をしながら、今ではダムが造られたことが分かりました。ラムサール条約が結ばれ、絶滅危惧種の鳥も来るようになりました。その陰では、化女沼のために活動している人々がいることも分かりました。化女沼が、いろいろな生物が住める場所になってよかったと思います。

◆活動3 第3学年：被災地支援活動（2016年10月22日～10月31日）

1 目的

- ① 沿岸部における被災と復興の現状に対する理解を促し、震災への思いを繋ごうとする気持ちを育てる。
- ② 被災地の方々への支援活動を通して、社会の一員としての自覚と奉仕の精神を養う。

2 実践活動

① 被災地への募金の呼びかけ（2016年10月22日）

被災地支援活動実行委員会を設置し、実行委員が文化祭で、全校生徒や保護者、地域の方々に募金を呼びかけた。また、保健・給食委員会は、廃油を使って作った石鹸を販売した。集まった募金や石鹸の売上金は、被災地ボランティア活動で桜の苗木を贈る費用にあてた。



② 石巻市被災地ボランティア活動（2016年10月28日）

NPO法人「さくら並木ネットワーク」の協力のもと、東日本大震災の津波で大きな被害を受けた石巻市北上町の十三浜地区で、桜の苗木を植樹するための整地作業を行った。翌年春に植樹予定で、その予定地の草刈りを行った。また、文化祭で募金活動を行い、集まった募金をNPO法人へ寄付した。



整地作業終了後、津波で児童が犠牲になった大川小学校を訪問し、慰霊した。

② まとめの活動（2016年10月31日）

この学習で学んだことを、各自作文にまとめた。

《 生徒の作文 》

私たちは、NPO法人「さくら並木ネットワーク」の方々の協力のもと、石巻市北上町で被災地支援活動を行いました。来年の春に桜を植樹する場所の整地作業を行い、文化祭での募金で桜の苗木を寄付しました。きっと私たちが仕事に就き、働く頃には、きれいな桜が咲くことでしょう。

その後、大川小学校へ行くと目に入ったものは、壊れてしまった校舎と、山に印された線でした。壊れてしまった校舎が津波の威力を、そして印された線が津波の高さを物語っていました。私自身、震災のことを忘れるこ

とができません。しかし、忘れるのではなく、未来に伝えることが大切だと気付かされました。

◆今年度の成果と課題

1 成果

① 活動1より

- ・化女沼が抱える課題や問題点という視点から考えたことがなかったため、生徒一人一人が新たな学習課題を設定する良い機会となった。
- ・自分で課題を設定して学習に取り組ませたため、問題解決に向けての自主性やモチベーションが高まった。
- ・化女沼が抱える課題を実際に体験したことで、自然や故郷を大切に作る心が育ち、環境保護の大切さを改めて認識させることができた。
- ・地域の自然環境を学習したことは、中学校卒業後も地域社会づくりの担い手として暮らしていこうとする意識や責任感を育てることに有意義であった。
- ・地域の方々との交流を通して、人との関わりやつながりを意識するようになり、そのありがたさを感謝する心を育てることができた。

② 活動2より

- ・化女沼の自然環境についてこれから学習を進める上で、生徒の興味・関心を高めるために大変有効であった。
- ・化女沼の環境保全の現状を知ることで、自分も地域の一員であるという自覚が芽生え、地域のために自分ができることを考えさせることができた。

③ 活動3より

- ・実行委員会を中心に募金などの活動に取り組んだことで、生徒の主体性が養われた。
- ・文化祭で地域の方々に、学校で取り組んでいる被災地支援活動について紹介することで、生徒自らが地域に対して情報を発信する機会となった。
- ・被災地支援ボランティア活動では、1年生の時に見た石巻市と現在の石巻市とを比較することで、震災復興の現状と課題を直に考えることができた。
- ・整地作業に積極的に取り組んだことで、自分たちが今後震災にどのように向き合うべきかを考えるとともに、地域の一員として復興に尽力していかなければならないという意識を養うことができた。

④ 活動全体を通して

- ・今回の活動で、地域の一員としての自分の関わりや果たすべき役割を認識できた。それにより、環境保全や防災に対する意識が高められた。
- ・今回の経験を通して、生徒達は地域の復興や活性化のために将来も関わってくれることが実感できた。それは、来年度の本校生徒会スローガン「櫛」に現れている。

2 課題

- ・今年度から、1、2年生は地域の化女沼を対象とした環境学習、3年生は被災地支援活動と、全学年に渡っての活動が実施された。学年間の活動の連続性や、教科学習との横断的な系統性など、今後の計画が大切である。
- ・石巻市での被災地支援活動は、今年度実施できた桜並木事業が継続的でないため、活動内容の検討が必要である。石巻市の関連団体との連携を考えていきたい。

- ・被災地支援活動に関して文化祭等での活動報告は行ったが、環境学習等について地域に発信する場の設定ができなかった。積極的な情報発信により、地域との連携を図った取組を進めたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）